

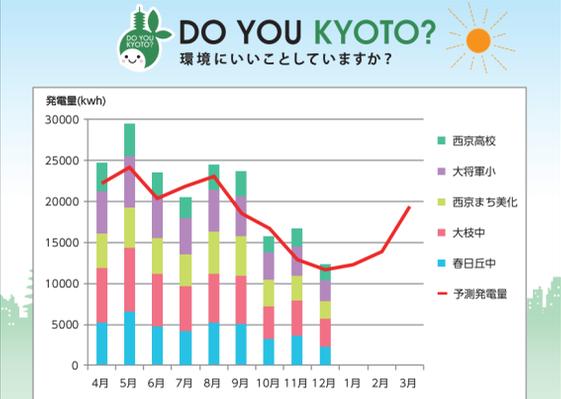
NEWS

「京都市プラスチック資源循環アクション」発表！
プラスチックの海への流出量が年々増え、生態系を含めた海洋環境への影響が心配されています。京都市はこれまでも、世界的な問題となつている海洋汚染の防止のほかごみ減量、地球温暖化対策、生物多様性保全等を図るため、ペットボトルやプラスチック製容器包装の分別収集、レジ袋の有料化、マイボトルの推奨など、プラスチックの利用削減、リデュースの工夫を続けてきました。それらに加えて2019年10月、すぐにすべき12の取組をまと

- ① 小売店におけるレジ袋の無料配布禁止(有料化の徹底)
② 市内給水スポットの情報発信
③ 多数の方へ見えやすい啓発およびイベント等での給水機の設置
④ 製品プラスチックのリサイクルに向けた検討
⑤ プラスチック製容器包装の分別啓発指導の強化
⑥ 散乱ごみ不法投棄ごみ対策の強化
⑦ 使い捨てプラスチック削減のための資金キャンペーンの実施
⑧ 情報発信、製品開発に係る事業者への支援
⑨ 排出事業者に対するプラスチックごみの発生抑制、分別指導の支援
⑩ 啓発物品の調達に係る使い捨てプラスチックの削減に関する方針の策定
⑪ イベント会場における使い捨てプラスチック製品の使用禁止
⑫ プラスチックを使わない優れた京もの情報発信・利用促進

「京都市プラスチック資源循環アクション」発表！
京都市は、2019年12月にスペインで開催された国連気候変動枠組条約第25回締約国会議(COP25)に参加し、日

びっくりエコ発電所活動レポート



京都市市民協働発電 2019年度発電実績
京都市市民協働発電の取組ですが、当団体は5ヶ所の施設で行っております。2019年4月から2019年12月までで予測発電量に達しなかったのは、7月と10月ですが、12月までの予測発電量に対しては112.1%と順調に推移しています。引き続き、施設の発電状況をモニタリングし、事業の安定的な運用をしております。

supported by logos for ESN, OMRON, KYOCERA, HORIBA, DaiwaHouse, DaiwaLease, TAKANO, HULIC, Wacoal, R 楽天信託株式会社, Switch.hifi, TEE, JT, 日本ウエスト株式会社, 安田産業株式会社, RICOH, economit, 科学技術振興機構

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学地球環境学堂 浅利研究室
びっくり！エコ新聞事務局
Mail: ecocheck@eprc.kyoto-u.ac.jp

2019年5月に京都市がホストシティを務めたIPCPC(気候変動に関する政府間パネル)第49回総会を記念して開催したシンポジウムで、世界平均気温の上昇を1.5℃以下に抑えるために、日本の自治体首長が初めて向かい合いました。京都市長が、山崎謙久(京都大学学長)とともに、「2050年CO2排出量正味ゼロをめざす覚悟を表明しました」

京都市がCOP25で2050年正味ゼロを世界へ呼びかけ
本先進的な自治体の中で、2050年ゼロをめざす行動が広がりをみせていることを伝え、世界中へ野心的な行動を広く呼びかけました。京都市が宣言したとおり、1年間で約4割が、2050年正味ゼロをめざす行動を開始した地域で生活しています。この広がりを、日本全体の温室効果ガス削減目標の積み重ねにつなげていくことが期待されています。

環境負荷を低減する持続可能なキャンパス(サステナブルキャンパス)の実現をめざして多彩な活動を展開しているエコ〜ど京大(学生中心の団体)。2019年、プラスチック問題に対する取組によって、「第1回Green Blue Education Forum(主催: Green Blue Education Forum実行委員会 共催: 文科省若手職員 京大)」を開催し、環境省で優秀賞と特別協賛アワード、サステイナブル賞、庶務野菜や野菜くずを利

エコ〜ど京大、受賞相次ぐ！
高評価を得てそれぞれのコンテスト第一回の受賞者に選ばれたこと、これからの活動にも弾みがかかっています。

京都市がCOP25で2050年正味ゼロを世界へ呼びかけ
本先進的な自治体の中で、2050年ゼロをめざす行動が広がりをみせていることを伝え、世界中へ野心的な行動を広く呼びかけました。京都市が宣言したとおり、1年間で約4割が、2050年正味ゼロをめざす行動を開始した地域で生活しています。この広がりを、日本全体の温室効果ガス削減目標の積み重ねにつなげていくことが期待されています。

京都市がCOP25で2050年正味ゼロを世界へ呼びかけ
本先進的な自治体の中で、2050年ゼロをめざす行動が広がりをみせていることを伝え、世界中へ野心的な行動を広く呼びかけました。京都市が宣言したとおり、1年間で約4割が、2050年正味ゼロをめざす行動を開始した地域で生活しています。この広がりを、日本全体の温室効果ガス削減目標の積み重ねにつなげていくことが期待されています。

高校生がSDGsカレー開発! 2019年度ELCAS講座



京都大学が高校生向けの体験型学習講座として実施しているELCASの一環として、浅利美鈴准教授(地球環境学堂)は19年度、カレーという身近な題材を用いて、さまざまな切り口からSDGsへのつながりを考え、SDGsに親しみ行動してもらうことを目的に、「持続可能なSDGsカレーの開発」講座(連続6回)を行いました。参加者9名は、最初にSDGsについての説明を聞き、SDGs個々の目標、基礎的な知識、世界観や特徴を学習したのち、「使用する食材」「調理の過程」「提供の際の工夫」のすべての観点からSDGsを達成しているカレーレシピの開発ワークに挑戦。ワークの工程ごとに、「プラスチック」や「せっけん洗剤」「食と持続可能性について」などのレクチャーを受けてSDGs関連の知識を広げつつ、3種類のカレーを完成させ、最終講座ではカレーパーティーを開いて招いた留学生や小学生たちに振舞いました。参加した高校生たちの感想は、「SDGsが街中のいたるところにあることに気づいた」「必要なプラスチックもあるという話が印象に残っている」といった、日常生活とSDGsとのつながりを意識したものが多く、今回のELCAS講座は、高校生たちがSDGsへの関心を深める契機になったのではないかと手応えを感じました。

元町学区エコ活動「プラスチック問題を考える学習会」

2019年7月14日(日)、元町学区エコ活動「プラスチック問題を考える学習会」(主催: 京エコロジーセンター)を京都大学で実施し、小学校1年生から中学生の約20人が、京都大学地球環境学堂の浅利美鈴先生やエコ〜ど京大メンバーの支援を受け、エコなカレー作り挑戦しました。まずは出町・栢形商店街でカレーの材料をゲット! タップを使って豆腐やお肉(割引もあり!)を、新聞紙で野菜を包んで、全てエコバッグに入れて買い物完了。できるだけ旬のものや地元産の食材を選びました。続いて調理へ。野菜を皮ごと食べるカレーを作りながらごみの量を調べると、なんと、普段の買い物や作り方に比べて、ごみが1~2割に激減! 各班がこだわって味を整えたカレーは、とてもおいしくなりました。



食後はマイクロプラスチック・海洋プラスチック問題について、京都大学地球環境学堂の田中平先生に教えていただきました。研究室で使っている顕微鏡でマイクロプラスチックを見たときには、みんな大興奮! 問題を解決するために自分達ができることも真剣に考えました。その後の質問タイムでは、たくさん手が挙がりました。「海がプラスチックで一杯になるまでどれだけ時間がある?」など、先生も困ってしまうような難しい質問も! プログラムの最後には、一人ずつごみを減らすための「行動宣言」をし、地域に広めていこうと話合いました。

安朱小学校

京都市立安朱小学校(山科区)の5年生は、「SDGsの観点から『安朱の魅力を守るために私たちができること』を考え、行動目標を決めて実践し、気づいたことや考えたことをポスターにして発表しました。」

同校では、2017年度から5年生が「SDGsの17の観点から地域を見つめ直すマップ作り」を通してSDGs学習に取り組んできました。今年度の5年生は、6年生から自分たちが取り組んだSDGsについて話を聞いたり、7月に京都大学地球環境学堂の浅利美鈴准教授からSDGsを深く知るための授業を受け、自分のこととして目の前の事象と向き合い、考えていくことの大切さを学習。そこで得た知識をもとに、SDGsの基本理念である「誰一人取り残さない」ために、安朱の地域で自分は何ができるかを考え、17項目のうちそれぞれ自分の行動目標を決めてキーワードを作成しました。そして、実際に取り組みを行い、「行動目標12: 食品ロスをなくすよう努力している。冷蔵庫の中を、消費期限の早いものを手前に並べ替えるようにしている。それだけでなく、よりよいものになった」「行動目標7: 限られた資源をどう無

駄なく使うのか。使っていないコンセントを抜く、1回1回電気を消す、できることを家族みんなで話し合った」など、「うまくいったこと」「難しかったこと」を書き出していきました。こうして実践で気づいたこと、体験することで見えてきたことをもとにポスターを作成し、11月の山階小学校5年生との交流会で発表しました。この実践学習で、子どもたちは「SDGsを達成するために自分にもできることがある」ということを学びとるとともに、学んだことをポスターにするという作業を通して、「人に伝える発信の仕方」についても学習しました。今後、学んだことをもとに、地域と共に「フードドライブ」の活動をしたり、学びを深め発信したりしていく予定です。



安朱小学校が令和元年度の京都環境賞を受賞!!
京都市立安朱小学校は、ESDやSDGsの視点を盛り込んだ環境教育を実施したこと、マレーシアの小学校と環境を巡る相互交流を目的とした清掃活動や地域と連携して植栽活動に取り組んでいることなどが高い評価を受け、令和元年度第17回の京都環境賞(大賞)を受賞し、昨年12月に京都市役所で表彰を受けました。

祇園祭創始1150年記念プロジェクト こんちきジーズ 2019年度活動報告

2019年5月~12月にかけて京都大学(エコ〜ど京大)と京都市が共同で取り組んだ、「こんちきジーズ」の活動には、大学生と社会人合計約60名が参加しました。5月12日のキックオフミーティング、6月1日の第1回全体ミーティングでは、三若神輿会吉川幹事長のお話を聞くなどして、SDGsや祇園祭についての基本的な知識や考え方を学びました。またミーティングの間の期間も、それぞれが、毎日SDGsの各ゴールに対してできることに取り組む「一日-SDGs」を行いました。その後、学生・社会人混成の10グループに分かれ、それぞれ「技の伝承~こんちきちゃんから学ぶ祇園祭千年の秘密~」や「祇園祭を軸とした次世代型鉢町コミュニティのあり方」、「女性と祇園祭の関わり方」などのテーマを設定しました。祇園祭の期間(7月~9月)には、グループごとに祇園祭のこれまでの変遷や現状を調査しました。文献調査に加え、山鉦保存会や関係

者の方々にアンケートやインタビューをすることで、祇園祭の意義や関わる人々の思いを知ることができました。第2回全体ミーティング(8月10日)では調査の中間報告を行い、その内容をまとめて、10月にゼスト御池寺町広場でパネル展示を行いました。第3回(9月6日)、第4回(10月19日)、第5回(11月16日)の全体ミーティングでは、調査を通して学んだことからSDGsや持続可能性に関する議論を行い、テーマに関連するSDGsの項目



梅小路小学校
京都市立梅小路小学校(下京区)の6年生は、「持続可能なまち」をキーワードとし、SDGsの17の目標を視点として、梅小路のまちを見直す活動を行いました。こと、発見したことをレポートにまとめて、12月4日に留学生に向けて英語で発表しました。今回のSDGs学習を通して、子どもたちは「地域の方が『お客さんや利用する人のために行っておられること』『企業として大事にしていること』が、SDGsの目標を達成することにつながっていることを知り、それが梅小路のまちのよさであることに気づきました。また、子どもたちの学習活動は地域の人のSDGsへの関心を呼び起こす効果をもたらし、学校には「今回の調査訪問を機に、SDGsの本を買って勉強した」「子どもたちと話をして改善点を見つけた」といった声が寄せられています。

6年生は、前年から取り組んできた地球環境問題に関する学習、地球環境学堂の浅利美鈴准教授やR.バース先生から受けたSDGsに関する授業をベースに、「自分たちのふるさとである梅小路校区のよさを知り、よりよまにしていこう」という課題で、「総合的な学習の時間」の学習を進めています。10月30日には、6年生たちが4グループに分かれ、京都大学で学ぶ世界の留学生たちとともに、「七条センター商店街」「西本願寺」「京都水族館」「島原地区」を訪れて、学区内のSDGsポイントを調べました。これは注意深く観察し、「窓にスタレがしてある。これはエネルギー削減になっているから、項目10」「古い町家が壊されているのは、住み続けられるまちづくりに当てはまるから、項目12」というように、17の目標に関連しているところを次々と発見。商店や施設への訪問では、「照明をLEDに変えた」「割れのある木も、チキリを入れて家具に加工して販売している」など、SDGsを意識して行なっていることや工夫している話を聞きました。この調査で気づいた

安朱小学校が令和元年度の京都環境賞を受賞!!
京都市立安朱小学校は、ESDやSDGsの視点を盛り込んだ環境教育を実施したこと、マレーシアの小学校と環境を巡る相互交流を目的とした清掃活動や地域と連携して植栽活動に取り組んでいることなどが高い評価を受け、令和元年度第17回の京都環境賞(大賞)を受賞し、昨年12月に京都市役所で表彰を受けました。

こんちきジーズ
2019年度活動報告
2019年5月~12月にかけて京都大学(エコ〜ど京大)と京都市が共同で取り組んだ、「こんちきジーズ」の活動には、大学生と社会人合計約60名が参加しました。

2019年5月~12月にかけて京都大学(エコ〜ど京大)と京都市が共同で取り組んだ、「こんちきジーズ」の活動には、大学生と社会人合計約60名が参加しました。

2019年5月~12月にかけて京都大学(エコ〜ど京大)と京都市が共同で取り組んだ、「こんちきジーズ」の活動には、大学生と社会人合計約60名が参加しました。

梅小路小学校

京都市立梅小路小学校(下京区)の6年生は、「持続可能なまち」をキーワードとし、SDGsの17の目標を視点として、梅小路のまちを見直す活動を行いました。

こと、発見したことをレポートにまとめて、12月4日に留学生に向けて英語で発表しました。今回のSDGs学習を通して、子どもたちは「地域の方が『お客さんや利用する人のために行っておられること』『企業として大事にしていること』が、SDGsの目標を達成することにつながっていることを知り、それが梅小路のまちのよさであることに気づきました。また、子どもたちの学習活動は地域の人のSDGsへの関心を呼び起こす効果をもたらし、学校には「今回の調査訪問を機に、SDGsの本を買って勉強した」「子どもたちと話をして改善点を見つけた」といった声が寄せられています。



6年生は、前年から取り組んできた地球環境問題に関する学習、地球環境学堂の浅利美鈴准教授やR.バース先生から受けたSDGsに関する授業をベースに、「自分たちのふるさとである梅小路校区のよさを知り、よりよまにしていこう」という課題で、「総合的な学習の時間」の学習を進めています。10月30日には、6年生たちが4グループに分かれ、京都大学で学ぶ世界の留学生たちとともに、「七条センター商店街」「西本願寺」「京都水族館」「島原地区」を訪れて、学区内のSDGsポイントを調べました。これは注意深く観察し、「窓にスタレがしてある。これはエネルギー削減になっているから、項目10」「古い町家が壊されているのは、住み続けられるまちづくりに当てはまるから、項目12」というように、17の目標に関連しているところを次々と発見。商店や施設への訪問では、「照明をLEDに変えた」「割れのある木も、チキリを入れて家具に加工して販売している」など、SDGsを意識して行なっていることや工夫している話を聞きました。この調査で気づいた

2019年5月~12月にかけて京都大学(エコ〜ど京大)と京都市が共同で取り組んだ、「こんちきジーズ」の活動には、大学生と社会人合計約60名が参加しました。

2019年5月~12月にかけて京都大学(エコ〜ど京大)と京都市が共同で取り組んだ、「こんちきジーズ」の活動には、大学生と社会人合計約60名が参加しました。

2019年5月~12月にかけて京都大学(エコ〜ど京大)と京都市が共同で取り組んだ、「こんちきジーズ」の活動には、大学生と社会人合計約60名が参加しました。